

仲間関係からみえてくる子どもの素顔

1 はじめに

子どもは家庭から多大な影響を受けて育ち、入園してきます。彼らが園で見せる姿と、それぞれの家庭で見せる姿は、同じでない場合がしばしばありますが、双方が子どもの姿で、どちらかが本物というものではありません。それゆえ、日頃から保護者が本音で語ってくれるような関係を築いておき、子どもの家庭での姿を十分に知ることが重要となってきます。

また、教師も保護者も先を急ぎすぎると子どもと共に歩むことはできません。その時々の子どもの思いを大切に注意深く受け止めていくことが必要です。子どもの中には、大人の思い通りに生活を送り、息詰まってしまう子どももいます。

子育ては保護者と共にと言いますが、子どもを核にして、保護者も教師も子どもから学び育てられているようなことは多くあります。子どものサインからその思いを洞察し、どのように関わるのがその子どもにとって最上であるかを探りましょう。

具体的な事例を通して、園生活の中で子どもの思いを受け止めることについて考えてみます。

2 遊びを通して子どもをみる

ケース1 5歳児T男の事例を通して

T男が遊具庫から鍋やボール、茶碗、皿などを抱えきれないくらい持って、どこかに運んでいこうとしていた。

担任が、T男に「そんなに沢山どこに持って行くの。」と聞くと、A男たち2～3人の仲間がいるところを見ながら、「砂場やよ。」と答えた。A男とT男とは3歳のクラスから一緒に、双方が頼りながら遊んでいることが多く見受けられた。しかし、最近A男の発言力が強くなり、周りの子どもたちがA男の言いなりになって遊んでいるように見え、担任は気になっていたところだった。担任はT男に、「友達を呼んだら」、「リヤカーに乗せて行ったら」と言った。T男は、一瞬考えたが、「大丈夫」と言い、そのまま運んで行ってしまった。

砂場遊びが終わりになり、T男が一人で遊具をせっせと片付けている姿を担任が見つけた。他の子はどこへ行ったのかを尋ねたが、T男は「知らん」と、関心なさそうに答え、片付け続けていた。

そこで、A男たちを探し「T男君が一人で片付けているんだけど、どうしてなのかなあ。」と尋ねてみた。すると、A男は悪びれる様子もなく「T男君が出してきたんやよ。僕、ひとつしか出しとらんで、もう片付けたよ。」と言う。担任が「みんなで一緒に遊んだね。それなのに、T男君一人が最後まで片付けをしているのは、何か変だなあ。」と、釈然としない自分の思いを子どもに伝えた。

一緒に遊んだ仲間が、片付けも一緒にできるようになって欲しいと、担任は思った。同時に、T男ばかり

りに片付けさせているA男の態度、T男が片付けていることに気付かないB男やC男の態度に腹立たしさを感じた。また、T男が当然のように片付けていることも残念でならなかった。

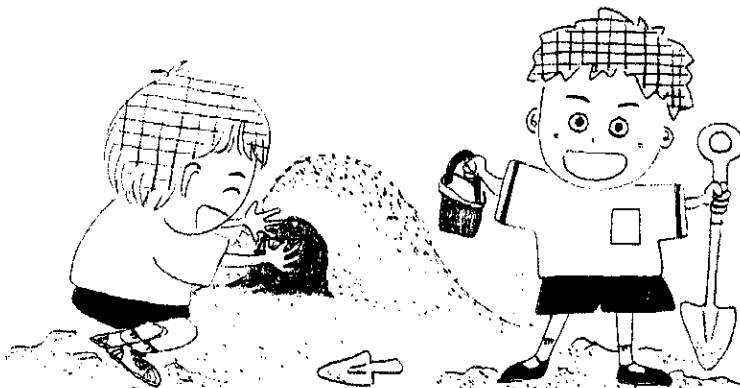
T男の母親が気にしていたこと

(この前後に、担任が母親から次のことについて相談を受けた。)

- ・ T男がA男と戦いごっこをすると、いつもT男がやられてばかりいる。
- ・ T男がいやだと言っていることを、A男は面白がってやることがある。
- ・ 嫌なことを嫌だと言えない我が子に苛立ちを感じている。

職員が互いの見方を出し合い、子ども理解を深める

- ・ A男とT男の力関係が今のまま続くと、「いじめ」につながり、T男はA男の使い走りになってしまうおそれがある。
- ・ T男は嫌なときには、断っている場面も見かける。善悪の判断をつけることで、使い走りにはならないと思う。
- ・ T男がA男にいやいやさせられている訳ではなくて、自分の意志で行動をしている。また、A男の言い分も一理あるのではないか。
- ・ T男はやさしくて3歳児が「やって」と頼んだら必ず受けるし、もし断るときでも、強い口調では言わない。周りの人に対する接し方が、自然にやさしくなるのではないか。
- ・ 昨年までのT男とA男の様子からは、A男が困っているとT男が助け、反対にT男が困っているときにはA男が力になっていた。お互いに支え合っているようだった。
- ・ A男は、教師の前ではわきまえた行動をとることが多いが、気に入らないときは泣いてでも思い通りにすることもある。T男はこうしたA男の特徴も分かって、一緒に遊んでいるのではないか。
- ・ T男に何かを求めることよりも、A男や周りにいる子どもたちがどう感じているのかを探って、どういう学級に育てていこうとしているのかをもう一度考えてみたらどうか。



(1) T男の行動を教師はどのようにみたらよいのでしょうか。

- ・ T男は今友達をそれほど必要としない遊びに満足しているようです。遊びの質的な充実を図ることができるように、環境を整えてみましょう。
- ・ T男のよさを‘やさしさ’として認めていきましょう。T男は誰に対しても同じように接しています。相手によって態度を変える人がありますが、T男は自然な自分を出しているようです。教師はそんなT男の良き理解者でありたいものです。

(2) A男の行動を、教師はどのように理解したらよいのでしょうか。

- ・ A男の様子が気掛かりです。教師の思いが強すぎると子どもは教師の前では取り繕うようになり、隠れて何かをしようとすることもあります。どの子どもとも温かい信頼関係を築き、自分を十分出せるようにしていくことが大切なことです。
- ・ A男を取り巻く一人一人の子どもの、自己を表出する力を育てていくことも大切です。教師の力を借りながら、他の子の思いに気付くようになって欲しいものです。

(3) A男やT男の思いを理解したうえで

- ・ もっと友達を必要と感じ、求めて遊ぶ機会を教師が意図的に作っていく必要があります。教師が仲間に加わり、楽しいゲームや遊びの提示をしながら、集団で遊ぶ楽しさを味わうことができるようにすることも考えてみましょう。

T男の事例から学んだこと

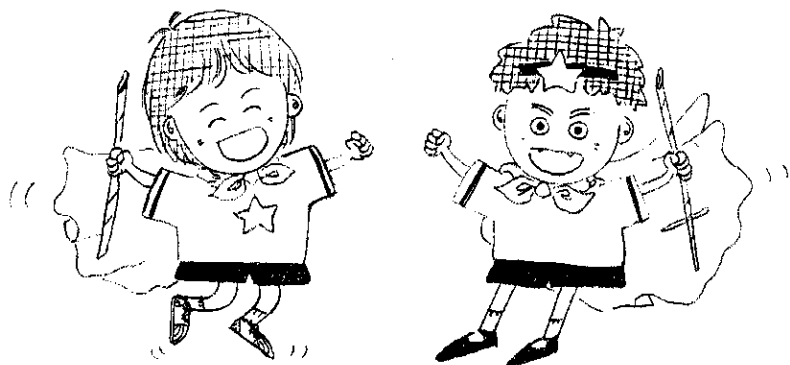
T男自身は、自分一人が片づけさせられる、何かをさせられるとは思っていませんでした。

T男を教師の理想に近づけようとして、T男に厳しさを求めても、本人がそうなりたいと願っている訳ではないのですから、T男の力として身につけてはいきません。教師と子どもとの信頼関係があれば、T男が困っているときに支援の手をさしのべることができます。日頃から、子どもたちの中に入って遊び、子どもの様子を知っておくことが大切です。

今、T男はK男と仲良くしています。二人は、つかず離れずの距離を置きながら友達関係を温めています。T男にとって気の合う友達ができつつあるのです。二人の様子を見守りながら、自分の思いを表現する楽しさ、友達と気持ちを合わせて遊ぶ楽しさを十分味わえるように支援することが重要です。

母親も、3人兄弟の真ん中ということで、つい見落とししていたことに気がきました。下の子に手をかける分、T男には口うるさく言っていたことを反省されたのです。

今後も、T男の園での姿を母親に伝え、気楽に子育ての話ができる関係を保っていくことが必要です。母親と教師とが一緒に、T男の思いを理解していかなければなりません。



糸巻き体操

みんなと仲良くなる遊び その1

遊び方

- ・ 2人から30人くらいまで円になって手をつなぐ。
- ・ 円の中を見て糸巻きの手遊びをします。
- ・ 手を離さないで1カ所のトンネルを順番にくぐっていきます。
- ・ 全員が円の外を見ることができたら、再び1カ所のトンネルをくぐって元の円になります。

※全員が手を握ったままであることが、遊びを楽しくするポイントです。



ケース2 5歳児N子の事例を通して

N子 の母親から

子どもが変なことを言うようになり、心配した母親が相談にみえました。

N子が「A子ちゃんとは遊んでいるけど、本当の友達じゃないの。」と言います。いつも遊んでいるA子ちゃんに対して、おかしいことを言うのです。母親が、「本当の友達って何？」と聞いてみると、「B子ちゃんやC子ちゃんみたいに、いつも一緒にいる子かな」という答えが返ってきました。

母親は、幼稚園児とは思えない考え方に驚いたのです。Aちゃん、Bちゃん、Cちゃんの3人は、帰宅後も互いの家を行き来して遊んでいる友達です。

幼稚園で何か変わったことがあったのではないかと、母親は心配になったのです。

職員が互いの見方を出し合い、子ども理解を深める

- ・N子が遠慮気味にしている。多分やりたいと思われる遊びに入ろうとせず、自分の周りの子を気遣って遊んでいる。
- ・N子の弟は、喘息で入院をしたり、手術をしなくてはならないようなことがある。「1日中抱っこやおんぶをして気が狂いそうになる」と母親がこぼしていた。N子は甘えたい時期に十分母親に甘えておらず、早くから自立をして良い子にならざるを得なかったのではないか。
- ・幼稚園に弟が遊びに来ると、危なくないようによく見ていて、あれこれと世話を焼いている。自分の遊びはどうなっているのか。弟の世話をすることが母親に対する自己主張で「私はこんなにいい子よ」とアピールしているのではないか。
- ・母親からは、子育てについてこうあるべきという信念が強く感じられる。4歳児のときN子が「幼稚園に行きたくない。」と言ったことを、母親はN子から担任に言わせていた。母親にN子が合わせるのではなく、母親がN子に合わせて、もっとゆったりとつき合ってもいいのではないか。

(1)N子を教師はどのように見たらよいのでしょうか。

- ・N子がサインを出しています。自分に注目して欲しい、友達とトラブルがあった、こんな言葉を覚えたなど、N子は友達や家族に自分のことを分かって欲しいのです。
- ・N子が「おもしろかった」「楽しかった」「もっとやってみたい」と感じて遊ぶことができているのでしょうか。教師とのスキンシップを図り、教師と1対1で関わることも必要です。N子が教師に甘えられるような関わりを心がける必要があります。
- ・N子は友達のことをどのように思っているのでしょうか。友達のことが、心の負担になってはいないでしょうか。N子の気持ちを探ってみましょう。N子は「いつもいっしょにいる子が友達」だと考えています。いろいろな友達がいることを知り、友達に関する考え方がもう少し気楽になるように、N子の負担を軽減することが必要です。

N子の事例から学んだこと

「友達じゃない」というN子の言葉をサインと受け止め、母親や教職員の中で話し合いました。この機会を通じて、N子が「私の苦しい気持ちを分かって」と母親にメッセージを送っていたことが分かりました。

母親との話からは、N子が内に秘めていた思いに気付くことができました。園内だけではとても知ること

ができないことでした。日頃から、母親とのコミュニケーションをとり、母親の気持ちを受け止める教師の姿勢が重要です。

母親の話をつっくり聞くと、弟のことを心配されていました。病気を持っている上に、弟が歩き始めで危険なために、母親は弟から目が離せない。自分一人で弟を見ているとしんどいので、ついついN子に頼ってしまっていた。話をしているうちに、母親はN子に頼りすぎていたことに気付いたのでした。

家で、いい子になろうとしていたN子。幼稚園でも周りに気を使っていたN子。自分を出すことに、戸惑いや後ろめたさを感じていたのかもしれません。

他の教師からも、遠慮がちにしている様子を教えてもらい、今後の方針を考えることが出来ました。

4 まとめ

子どもは、ありのままの自然な自分を出そうとします。しかし、こうあって欲しいという大人からの願いを押しつけられてしまうこともあります。大人に気を使い、素直な自分を表出できないこともあります。子どもを一人の人間として尊重し、その思いを十分に汲み取る必要があります。

教師は、

- ・子どもとスキンシップを図り、信頼関係を築く。
- ・子どもが自然な姿で表現するのを受け容れ、安心して自己表出できるように努める。
- ・保護者との話し合いの中から親子関係をみつめる。

ことに留意して、子どもとの関係を深めることが必要です。

ぴったんこジャンプ

みんなと仲良くなる遊び その2

遊び方

- ・二人でペアを作ります。友達同士でも、親子でも構いません。
- ・向かい合って手をつなぎます。「ジャンプ、ジャンプ」の音楽に合わせてジャンプを2回します。
- ・以後は、歌に合わせておでこ、ほっぺ、鼻、おなか、お尻などをくっつけて遊びます。

※子どもとのスキンシップを十分にとることができます。照れくさがらないで、子どもと保護者が思い切り身体を密着させるチャンスにしましょう。

